

令和6年度 葉面散布肥料・特殊資材の使い方 【りんご】

※記載されている内容は、あくまで例の倍率、使用時期です。

JAグリーン長野営農販売部・経済部

こんな時に使用	商品名	成分(%)	内容	使用倍率	主な使用時期 ※使用例。
樹勢を高める 果実肥大を良くする	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。展着剤代わりになる。	500	開花直前・落花直後等
	尿素	N46	高温時はサビ発生に注意。	500	
カルシウム欠乏を軽減したい 果実の軟化を軽減したい	ストピットⅡ	Ca95.2	2種類の水溶性カルシウムにより、安定した補給ができ、 有機皮膜補助剤が配合されており、水分乾燥を促進し、果実や葉のストレスを軽減する。	500	定期防除(落花直後・5・6・7回) に混用散布する。 又は、定期防除(落花直後)から 7日間隔で3回散布する。 収穫1ヶ月前から7日間隔で2-3回散布する。 ※農薬混用可。
	スイカル	Ca42	ギ酸カルシウムにより、カルシウムを補給し、生理障害を軽減する。	1,000	
	カルタス	Ca10	キレートカルシウム、カルシウムを補給し、生理障害を軽減する。りん酸肥料と混用可。	500	
	カルビタ	Ca18.92-N0.1- P0.65-Mg1.4-微	カルシウム欠乏防止、油上がり防止、果実軟化防止。りん酸肥料と混用可。	500-1000	
果実軟化を軽減し、 果実品質を向上させたい	カルビタP	Ca14.83-P14.5-K1.9 -N2.2-Mg1.1-微	リン酸とカルシウムは結合し、溶けにくくなるため、 同時使用ができないが、これを改善した肥料。	770	収穫1ヶ月前から7日間隔で2-3回散布する。 ※農薬混用可。
マグネシウム(苦土)欠乏 を軽減したい (光合成を高めたい)	グリーントップ70	Mg23	マグネシウムは光合成を盛んにし、リン酸の働きを活発にし、糖度を向上させる。	500	落花後から2週間間隔で3-4回
	リーフマグ(ビックマグ)	Mg30(23)		1,000	
	グリーンデイズ	Mg16-Mn9-B2.5	予防的使用 マグネシウムに加えて、マンガンとほう素を同時補給できる。	500-1000	
果実品質を高め、 花芽の充実を図りたい	オルガミン	N0.11-K0.11-Mg4 -Mn0.25-B0.7	魚・糖蜜をメインに発行させて作られた天然発行抽出アミノ酸に核酸・ビタミン・微量元素を追加。	1000-2,000	定期防除(落花直後から毎回)混用散布する。
	友果		海洋魚から抽出され良質なアミノ酸、核酸を豊富に含み品質向上させ、 棚持ちのよい果実になる。	500-1,000	定期防除(6・7回)に混用散布と 収穫1ヶ月前(農薬混用可)に散布する。
	ケルパック66		巨大海藻から抽出した海藻エキス。 アミノ酸やミネラル等の成分によって、光合成が高まり、品質向上が期待できる。	5,000-1,000	定期防除(落花直後から毎回)混用散布する。 ただし、収穫間際のみ500-1000倍で使用。
梅雨時の徒長を抑制し、 花芽を充実させたい。	アミノメリット黄	N3-P5-K5-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け健全な生育を促進し、梅雨時の徒長抑制や 花芽分化の促進、充実を図れる。展着剤代わりになる。	500	開花期前後並びに定期防除(8・9・10・11回) に混用散布。
果実品質を高めたい ふじの地色を抜き、 着色を向上したい	メリット赤	P10-K9-微	肥効の高いりん酸が配合されており、着色促進(地色抜き)が期待できる。展着剤代わりになる。	300	9月中下旬から7日間隔で 2-3回散布する。農薬混用可。
	色一番E	P42-K28-微量元素	リン酸、カリの成分が多い肥料カルビタ関係とは、混用してもよい	1,000-2,000	
果面障害(サビ等)を軽減したい	クレフノン	Ca95	炭酸カルシウムが主成分で果面保護をし、サビ果の軽減をする。	100	第4回防除～第7回防除
晩霜対策 果面障害の軽減	霜ガード		葉・蕾・花・幼果をシリカのふとんで包み、凍霜害の被害軽減。 農薬の乾きが速まりサビ果の発生を軽減。落弁促進、花カス除去効果も。 開花前から幼果期までの定期農薬散布へ混用も可能だが、農薬の効果が低下する。	50-100	開花3-4週間前の蕾期と風船期50倍 と開花期～幼果期100倍 凍霜害予想日の前日散布

※葉面散布は、あくまで補助的なものです。これだけに頼らず、栽培管理や整枝剪定、土壌管理の徹底により、品質を高めましょう。 ※必ずラベル(特に注意事項等)を確認の上、使用下さい。

※液肥でも、kg標記の場合は、重量で使用量を決める。 ※特に標記の無い場合は、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用できない。 ※特に標記の無い場合は、展着剤を使用下さい。

※記載されている資材は、主にJAファームにて販売されているものです。ご注文となる場合もありますので、店舗にてご確認下さい。

葉面散布の注意点と具体的使用方法の提案〔りんご〕

1. 作物は、根からでなく、葉からも養分を吸収することができる。葉から直接養分が吸収されるので、速効性がある。
しかし、根からの吸収量に比べて少なく、あくまで補助的な手段になる。
2. 下記のような条件等において、葉面散布の効果が期待（有効）できます。

①天候不順（日照不足・異常高温低温等）があり、根の養分吸収機能が低下している。

②土壌に施用しても、不可吸態になり、植物に吸収されにくい。 ③着果過多による同化養分の補給が追い付かない。

④微量要素欠乏による生理障害が予想されたり、初期症状が発生した。

⑤養分不足を急速に回復したい。 ⑥作物の品質向上を図る。
3. 注意点

①葉面散布における最適な温度は、15～25℃程度。5℃以下では、吸収が大幅に減少し、
30℃を超えると葉焼け症状の発生が多くなるため、使用を控える。また、範囲内であっても、希釈倍率を薄めて、
使用する事が望ましい。

②幼木や若い柔らかい葉はど、葉害を生じやすい。
4. 具体的使用方法の提案 ※あくまで、使用例です。表面と使用方法が異なる場合があります。
※複数ある資材は、選択して使用下さい。

薬剤防除 時期 (散布時期 目安)	第1回 (3月中下旬)	第2回展葉始 (4月上旬)	(4月中旬)	第3回開花直前 (4月下旬)
凍霜害 対策	第1回防除～第2回防除の間に単用 霜ガード:50倍		特防除～第3回防除に混用散布 または単用散布 霜ガード:50倍	
品質向上 花芽充実 生理障害 対策		防除に混用散布 アミノメリット黄:500倍		
防除 時期	第4回落花直後～第6回 (5月上旬～6月上旬)	第7回～第12回 (6月中下旬～9月上旬)	第13回・14回 (9月中下旬・10月上旬)	10月中旬
凍霜害 対策	開花期～幼果期に混用散布 霜ガード:100倍			
品質向上 花芽充実 生理障害 対策	防除に混用散布 ケルパック66:5,000倍 又は 友果:500-1,000倍 又は オルガミン:1,000倍 + ストピットⅡ:500倍 又は スイカル:1,000倍 又は カルビタ:1,000倍 又は カルタス:500-1,000倍	防除に混用散布 ケルパック66:3,000倍 又は 友果:500-1,000倍 又は オルガミン:1,000倍	防除に混用散布 ケルパック66:1,000倍 又は 友果:500-1,000倍 又は オルガミン:2,000倍 + メリット赤:500倍 又は カルビタP:770倍 又は 色一番E:1,000-2,000倍	単用散布 ケルパック66:1,000倍 又は 友果:500-1,000倍 又は オルガミン:2,000倍 + メリット赤:500倍 又は カルビタP:770倍 又は 色一番E:1,000-2,000倍
	単用散布、2～3回 グリーントップ70:500倍 又は リーフマグ:1,000倍			

令和6年度 葉面散布肥料・特殊資材の使い方 【もも・ネクタリン】

※記載されている内容は、あくまで例の倍率、使用時期です。 JAグリーン長野営農販売部・経済部

こんな時に使用	商品名	成分(%)	内容	使用倍率	主な使用時期 ※使用例。
受精安定 果実肥大促進	アミノメリット黄	N3-P5-K5-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け健全な生育を促進し、梅雨時の徒長抑制や花芽分化の促進、充実を図れる。展着剤代わりになる。	500	開花7日前と開花始めと落花5日後の3回 3回目のみアミノメリット青とする。
	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。展着剤代わりになる。	500	
樹勢を高める 果実肥大を良くする	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。展着剤代わりになる。	500	落花直後等
	尿素	N46	高温時はサビ発生に注意。	500	
樹勢が強い樹対策	メリット赤	P10-K9-微	肥効の高いりん酸が配合されており、着色促進(地色抜き)が期待できる。展着剤代わりになる。	300	6月中に7-10日間隔で3回散布する。 ※定期防除に混用してもよい。
	色一番E	P42-K28-微量要素	リン酸、カリの成分が多い肥料カルビタ関係とは、混用してもよい	2000	
果実の軟化を軽減したい	ストピットⅡ	Ca95.2	2種類の水溶性カルシウムにより、安定した補給ができ、有機皮膜補助剤が配合されており、水分乾燥を促進し、果実や葉のストレスを軽減する。	500	収穫30日前から10日間隔で3回散布する。 ※定期防除に混用してもよい。
	スイカル	Ca42	ギ酸カルシウムにより、カルシウムを補給し、生理障害を軽減する。	1,000	
	カルタス	Ca10	キレートカルシウム、カルシウムを補給し、生理障害を軽減する。りん酸肥料と混用可。	500	
	カルビタ	Ca18.92-N0.1-P0.65-Mg1.4-微	カルシウム欠乏防止、油上がり防止、果実軟化防止。りん酸肥料と混用可。 ※代わりにカルビタP770倍又はカルビタPK500倍を使用してもよい。	1,000	
果実軟化を軽減し、 果実品質を向上させたい	カルビタP	Ca14.83-P14.5-K1.9-N2.2-Mg1.1-微	リン酸とカルシウムは結合し、溶けにくくなるため、同時使用ができないが、これを改善した肥料。	770	
マンガン欠乏を軽減したい	硫酸マンガン	MN40	マンガン欠乏対策に。	250	落花30日(5月下旬)と落花40日(6月上旬) 又は、発生が見られた時。 落蕾症発生園は、100倍で使用。
	葉面散布用硫酸マンガン	Mn13.5	使いやすい、液剤の硫酸マンガン。マンガン欠乏対策に。	200	
	グリーンデイズ	Mg16-Mn9-B2.5	予防的使用 マンガンに加えて、マグネシウム(苦土)とホウ素を同時補給できる。	500-1000	
マグネシウム(苦土)欠乏 を軽減したい (光合成を高めたい)	グリーントップ70	Mg23	マグネシウムは光合成を盛んにし、リン酸の働きを活発にし、糖度を向上させる。	500	落花後から2週間間隔で3-4回
	リーフマグ(ビックマグ)	Mg30(23)		1000	
果実の品質を高めたい	メリット赤	P10-K9-微	肥効の高いりん酸が配合されており、着色促進(地色抜き)が期待できる。展着剤代わりになる。	300	収穫30日前・15日前頃、除袋後に3回散布。
	色一番E	P42-K28-微量要素	リン酸、カリの成分が多い肥料カルビタ関係とは、混用してもよい。	2000	
	モーニングシャイン	N2-P3-K3.5-B0.1	海藻エキス、コリン、タウリン配合。	1,000-500	収穫30日前・15日前頃に2回散布。
果実品質を高め、 花芽の充実を図りたい	オルガミン	N0.11-K0.11-Mg4-Mn0.25-B0.7	魚・糖蜜をメインに発行させて作られた天然発行抽出アミノ酸に核酸・ビタミン・微量元素を追加。	1000-2,000	定期防除(落花直後から毎回)混用散布する。
	友果		海洋魚から抽出され良質なアミノ酸、核酸を豊富に含み品質向上させ、棚持ちのよい果実になる。	500-1,000	定期防除(4・6・7・9・除袋防除回)混用散布する。
	ケルパック66		巨大海藻から抽出した海藻エキス。アミノ酸やミネラル等の成分によって、光合成が高まり、品質向上が期待できる。	5,000-1,000	定期防除(落花直後から毎回)混用散布する。 ただし、収穫間際のみ500-1000倍で使用。
薬害軽減を軽減したい	クレフノン	Ca95	炭酸カルシウムが主成分で、銅剤による薬害を軽減する。	100	5月のクプロシールド、秋季のムッシュボルドーDFに使用する。
晩霜対策 果面障害の軽減	霜ガード		葉・蕾・花・幼果をシリカのふとんで包み、凍霜害の被害軽減。 農薬の乾きが速まりサビ果の発生を軽減。落弁促進、花カス除去効果も。 開花前から幼果期までの定期農薬散布へ混用も可能だが、農薬の効果が低下する。	50-100	開花3-4週間前の蕾期と風船期50倍 と開花期～幼果期100倍 凍霜害予想日の前日散布

※葉面散布は、あくまで補助的なものです。これだけに頼らず、栽培管理や整枝剪定、土壌管理の徹底により、品質を高めましょう。 ※必ずラベル(特に注意事項等)を確認の上、使用下さい。
※液肥でも、kg標記の場合は、重量で使用量を決める。 ※特に標記の無い場合は、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用できない。 ※特に標記の無い場合は、展着剤を使用下さい。
※記載されている資材は、主にJAファームにて販売されているものです。ご注文となる場合もありますので、店舗にてご確認下さい。

葉面散布の注意点と具体的使用方法の提案〔もも・ネクタリン〕

1. 作物は、根からでなく、葉からも養分を吸収することができる。葉から直接養分が吸収されるので、速効性がある。

しかし、根からの吸収量に比べて少なく、あくまで補助的な手段になる。

2. 下記のような条件等において、葉面散布の効果が期待（有効）できます。

- ①天候不順（日照不足・異常高温低温等）があり、根の養分吸収機能が低下している。
- ②土壌に施用しても、不可吸態になり、植物に吸収されにくい。
- ③着果過多による同化養分の補給が追い付かない。
- ④微量要素欠乏による生理障害が予想されたり、初期症状が発生した。
- ⑤養分不足を急速に回復したい。
- ⑥作物の品質向上を図る。

3. 注意点

- ①葉面散布における最適な温度は、15～25℃程度。5℃以下では、吸収が大幅に減少し、30℃を超えると葉焼け症状の発生が多くなるため、使用を控える。また、範囲内であっても、希釈倍率を薄めて、使用する事が望ましい。
- ②幼木や若い柔らかい葉はど、薬害を生じやすい。

4. 具体的使用方法の提案 ※あくまで、使用例です。表面と使用方法が異なる場合があります。

※複数ある資材は、選択して使用下さい。

薬剤防除 時期 （散布時期 目安）	第1回 （3月中旬）	第2回開花直前	第3回満開後頃	第4回落花10日後
凍霜害 対策	第1回防除後に1回、第2回防除前に1回、単用散布 霜ガード：50倍		第3回・第4回防除に混用散布 または単用散布 霜ガード：100倍	
品質向上 花芽充実 生理障害 対策	開花予定7日前頃に単用散 アミノメリット黄：500倍	開花後に単用散布 アミノメリット黄：500倍	第3回防除5日後頃に単用散 アミノメリット青：500倍	防除に混用散布 ケルパック66：5,000倍 又は 友果：500-1,000倍 又は オルガミン：1,000倍
防除 時期	第5回～第8回 （5月中旬～6月下旬）	第9回～第10回 （7月上旬中旬～7月下旬）	除袋後	収穫2日前
品質向上 花芽充実 生理障害 対策	防除に混用散布 ケルパック66：5,000倍 又は 友果：500-1,000倍 又は オルガミン：1,000倍 ＋ グリーントップ70：500倍 又は リーフマグ：1,000倍	防除に混用散布 ケルパック66：3,000倍 又は 友果：500-1,000倍 又は オルガミン：1,000倍 又は モーニングシャイン：1,000倍 ＋ ストピットⅡ：500倍 又は スイカル：1,000倍 又は カルビタ：1,000倍 又は カルタス：500-1,000倍	防除に混用散布 ケルパック66：1,000倍 又は 友果：500-1,000倍 又は オルガミン：2,000倍 又は モーニングシャイン：1,000倍 ＋ メリット赤：500倍 又は カルビタP：770倍 又は 色一番E：1,000-2,000倍	防除に混用散布 ケルパック66：1,000倍 又は 友果：500-1,000倍 又は オルガミン：2,000倍 ＋ メリット赤：500倍 又は カルビタP：770倍 又は 色一番E：1,000-2,000倍
	単用散布、2～3回 硫酸マンガン：250倍 又は 液体硫酸マンガン：200倍 又は グリーンデイズ：500倍			

令和6年度 葉面散布肥料・特殊資材の使い方〔ぶどう〕

※記載されている内容は、あくまで例の倍率、使用時期です。

JAグリーン長野営農販売部・経済部

こんな時に使用	商品名	成分(%)	内容	使用倍率	主な使用時期
芽ぞろいの向上を図る	メリット青	N3-P5-K5-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け健全な生育を促進し、梅雨時の徒長抑制や花芽分化の促進、	2	2月から3月上旬頃に芽に塗布する。 ※塗布後、降雨にあうと効果が低減する。
樹勢を高める	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。 展着剤代わりになる。	500	袋掛け後、7月下旬から5-7日間隔で2-3回散布する。※ボルドー液との混用可能。ただし、日中高温時は葉焼けが生じるので注意する。
種あり巨峰の結実安定をしたい	マルポロン		ホーサンでぶどうの結実を安定させる。	330	開花7日前と2日前
	色一番E	N42-K28-微量要素	リン酸、カリの成分が多い肥料。カルビタ関係とは、混用してもよい	1,000	展葉5-6枚期と定期防除(展葉7-8枚)に散布。
	ケルパック66			500	定期防除(展葉7-8と開花直前)の間に散布。
果実品質を高め、 花芽の充実を図りたい	オルガミン	N0.11-K0.11-Mg4-Mn0.25-B0.7	巨大海藻から抽出した海藻エキス。 アミノ酸やミネラル等の成分によって、光合成が高まり、品質向上が期待できる。	1000-2,000	定期防除(展葉7-8から落花直後)に混用散布。 袋掛け後の、ボルドーに混用散布。
	ケルパック66			3,000-1,000	展葉5-6枚期と定期防除(開花直前・落花直後)に混用散布する。
熟度促進 着色向上	アミノメリット黄	N3-P5-K5-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け健全な生育を促進し、梅雨時の徒長抑制や花芽分化の促進、充実を図れる。 展着剤代わりになる。	500	8月上旬～下旬に5-7日間隔で3回散布する。 1回目は、窒素を含んだアミノメリット黄を使用。 ただし、弱樹勢樹は行なわない。
	メリット赤	P10-K9-微	肥効の高いりん酸が配合されており、着色促進(地色抜き)が期待できる。 展着剤代わりになる。	300	
	色一番E	P42-K28-微量要素	リン酸、カリの成分が多い肥料。カルビタ関係とは、混用してもよい。	1,000	
	モーニングシャイン	N2-P3-K3.5-B0.1	海藻エキス、コリン、タウリン配合。	1,000-500	袋掛け後からのボルドーに混用散布。
マグネシウム(苦土)欠乏を軽減したい (光合成を高めたい)	グリーントップ70	Mg23	マグネシウムは光合成を盛んにし、リン酸の働きを活発にし、糖度を向上させる。	500	定期防除(9・10・11回)に混用散布。 及び欠乏症が確認された時。 ただし、果実汚れ防止袋掛け後とする。
	リーフマグ(ビックマグ)	Mg30(23)		1,000	
晩霜対策	霜ガード		葉・蕾・花・幼果をシリカのふとんで包み、凍霜害の被害軽減。 農薬の乾きが速まりサビ果の発生を軽減。 落弁促進、花カス除去効果も。	50	萌芽期

※葉面散布は、あくまで補助的なものです。これだけに頼らず、栽培管理や整枝剪定、土壌管理の徹底により、品質を高めましょう。 ※必ずラベル(特に注意事項等)を確認の上、使用下さい。

※液肥でも、kg標記の場合は、重量で使用量を決める。 ※特に標記の無い場合は、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用できない。 ※特に標記の無い場合は、展着剤を使用下さい。

※記載されている資材は、主にJAファームにて販売されているものです。ご注文となる場合もありますので、店舗にてご確認下さい。

令和6年度 葉面散布肥料・特殊資材の使い方〔特産果樹〕

※記載されている内容は、あくまで例の倍率、使用時期です。

JAグリーン長野営農部・生産購買部

こんな時に使用	商品名	成分(%)	内容	使用倍率	主な使用時期
樹勢を高める 果実肥大を良くする	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。 展着剤代わりになる。	500	開花直前・落花直後等
	尿素	N46	高温時はサビ発生に注意。	500	
ほう素欠乏を軽減したい	ソーゲン	N5-P4-K3-Mg1-B3-微	有機りん酸(フィチン酸)のキレート作用により吸収性がよく、 ほう素を効率良く利用させる。	500	杏の定期防除（落花１５日・落花３０日 ・収穫２週間前）に混用散布。
果実品質を高め、 花芽の充実を図りたい	オルガミン	N0.11-K0.11-Mg4 -Mn0.25-B0.7	魚・糖蜜をメインに発行させて作られた天然発行抽出アミノ酸に核 酸・ビタミン・微量元素を追加。	1000-2,000	
	友果		海洋魚から抽出され良質なアミノ酸、核酸を豊富に含み品質向上さ せ、棚持ちのよい果実になる。	500-1,000	
	ケルパック66		巨大海藻から抽出した海藻エキス。 アミノ酸やミネラル等の成分によって、光合成が高まり、品質向上 が期待できる。	1,000-2,000	
	モーニングシャイン	N2-P3-K3.5-B0.1	海藻エキス、コリン、タウリン配合。	1,000-500	
晩霜対策 果面障害の軽減	霜ガード		葉・蕾・花・幼果をシリカのふとんで包み、凍霜害の被害軽減。 農薬の乾きが速まりサビ果の発生を軽減。 落弁促進、花カス除去効果も。 開花前から幼果期までの定期農薬散布へ混用も可能だが、農薬の 効果が低下する。	50-100	開花３－４週間前の蕾期と風船期５０倍 と開花期～幼果期１００倍 凍霜害予想日の前日散布

※葉面散布は、あくまで補助的なものです。これだけに頼らず、栽培管理や整枝剪定、土壌管理の徹底により、品質を高めましょう。 ※必ずラベル(特に注意事項等)を確認の上、使用下さい。

※液肥でも、kg標記の場合は、重量で使用量を決める。 ※特に標記の無い場合は、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用できない。 ※特に標記の無い場合は、展着剤を使用下さい。

※記載されている資材は、主にJAファームにて販売されているものです。ご注文となる場合もありますので、店舗にてご確認下さい。